



KONICA MINOLTA

## 冬の星座解説

---

S-405 (14 分 02 秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

日の入り

M

冬。一年の中で最も寒い季節。活動をやめ、眠りにつく動物たちもいます。

太陽は低く、その輝きも弱く、夜が長い季節でもあります。

気温が次第に寒くなると、やがて野外の水が凍り、霜や雪などの気象現象が起きます。

日の入りの時間も徐々に早くなってきます。

ほら、もうすぐ太陽が沈んでいきますよ。

※音楽終わる

星空

M

冬の星空です。

冬の夜は寒いですが、空気が澄んで星空がもっとも美しく見える季節です。

また、明るい一等星が多いので、星の登場を待つのが楽しい季節です。

正面に、三つの星が並んだところがあります。

その星たちを囲むように4つの明るい星。

星座の中でも人気を誇る

『オリオン座』です。

この形は、日本古来の楽器、つづみに似ていることから『つづみ星』とも呼ばれています。

オリオンの三つ星

オリオンライン

オリオン座

オリオンライン

ベテルギウス

リゲル

オリオンの三つ星  
オリオン座

この赤い色をした 星は、  
一等星の『ベテルギウス』。

そして、もう一つ青白く見える星も一等星で、  
『リゲル』と言います。

この二つの一等星をはさんで、  
三つ並んだ二等星が、  
ちようどオリオンの腰のベルトの所に  
当てはまります。

そこでこの三つの星を  
「オリオンの三ツ星」と、呼んでいます。

『オリオン座』は、ギリシャ神話に出てくる、  
狩人オリオンの姿です。

M

オリオンは、狙った獲物は必ずしとめるという  
狩の名人でした。

しかし、自分の腕前を見せびらかすため、  
乱暴を振るうようになりました。

それに怒った大神ゼウスは、さそりを使い、  
オリオンを毒針で刺し、  
天に上げてしまいました。

その後、さそりも天に上げられ星座となりました。

今でも『オリオン座』は冬の間、空高いところで  
威張っています。『さそり座』が東の空から  
上ってくると、逃げるように  
西の空に沈んでいきます。

M

そんな『オリオン座』ですがその姿を見ると、  
何かに向かって、戦っているように見えませんか？

オリオンが見つめるその先には、  
大きな牛がいます。  
『おうし座』です。

おうし座

## オリオン座

## アルデバラン

## プレアデス星団のあたり

## プレアデス星団

この牛はオリオンを天に上げた、大神ゼウスが、変身した姿だと言われています。

ギリシャ神話では、オリオンは大神ゼウスの手によって、天に上げられ星になったと言うところで物語りは終わります。

星座となったオリオンの姿を見てみると、まるで『よくも俺を星座にしてくれたな!』と、大神ゼウスへ、今でも戦いを挑んでいるようにも見えますネ。

『おうし座』の右目を見てください。

赤い明るい星が見えています。

これが一等星の『アルデバラン』

『アルデパラン』には、『プレアデスに続くもの』という意味があります。

『プレアデス』とは、『プレアデス星団』のこと。

『星団』とは、星が一ヶ所に集まったものを呼んでいます。

この辺りにありますが、・・・。

・・・見つけられましたか？

ほらここに、星がごちゃごちゃと集まっているでしょ。

これが『プレアデス星団』。  
日本では『すばる』と呼ばれて、有名です。

『アルデバラン』は、この『プレアデス』の星たちの後を追うように、時間が進むと西の地平線に傾き、沈んでゆきます。それで『プレアデスに続くもの』と、呼ばれているんですネ。

シリウス

明るい星が多い冬の星座の中でも、特に明るさで目を引くのが、この星。

一等星の『シリウス』です。

おおいぬ座

『シリウス』は、『おおいぬ座』という星座の星になります。

この『おおいぬ座』のそばには、もう一匹の小さな犬の姿があります。

こいぬ座

『こいぬ座』です。

プロキオン

『こいぬ座』にも明るい星があります。

この星は『プロキオン』という一等星です。

『プロキオン』とは、『犬の前に』という意味があります。

これは、『おおいぬ座』の『シリウス』より、ほんの少し早く、東の地平線から昇ってくるのでそう言われています。

オリオン座

『おおいぬ座』、『こいぬ座』は、『オリオン座』の狩人オリオンの後を付いて行く、猟犬のようにもみえますね。

プロキオン

『こいぬ座』の『プロキオン』・・・、

シリウス

『おおいぬ座』の『シリウス』・・・、

ベテルギウス

『オリオン座』の『ベテルギウス』・・・、

冬の大三角

この3つの星で作られる三角形のことを『冬の大三角』と呼びます。冬を代表する星の並びで、星座を探すときの目印となりますので覚えておきましょう。

おうし座

『おうし座』の角の辺りから、北の方にも星座があります。

ぎよしゃ座

『ぎよしゃ座』です。

『ぎよしゃ』とは、馬車を操る人の事です。

この姿は四頭立ての馬車を発明した王様エリクトニウスが、星座になったと言われています。

カペラ

この中に明るい一等星の『カペラ』があります。この星も明るいので、街の中でも比較的見つけ易いと思います。

ぎよしゃ座のあたりから東の方に目をやると、明るい星が二つ並んでいるのが見わかります。

ポルックス

一つは、一等星の『ポルックス』

カストル

隣の星は、二等星の『カストル』です。

『カストル』も、もとは一等星だったと言われていますが、いつしか暗くなり、今では二等星として輝いています。

ふたご座

この二つは、『ふたご座』の星になります。一等星の『ポルックス』が弟の星。二等星の『カストル』は兄の星になります。

日本では、『ポルックス』を金星、『カストル』を銀星とも呼んでいます。

この『ふたご座』の兄弟は、貧しい夫婦の間に生まれました。

やがて、二人は離れ離れに里子に出されることとなります。

二人は、離れ離れになることを嫌がり泣いていました。

それを見た神が、可愛そうに思い、いつまでも一緒にいられるようにと、天に上げたというお話もあります。

※音楽終わる

今度は、ちょっと見つけにくい一等星をご紹介します。

その見つけにくい一等星の名前は、『カノープス』

M

ヒントは、南の地平線、ギリギリの所に見えています。

見つけられましたか？

カノープス

これが、『カノープス』です。

これから昇ってくるのかな・・・？と思って眺めていると、そのうち沈んでしまいます。

この『カノープス』という一等星は、一番高く昇ってきてても、だいたい今、見えている高さしか昇ってきません。

ですから、実際の星空で、南の地平線に建物や山があると、見ることができません。

見つけることが難しい為、中国では、『この星を見つけることができれば、いいことがある』、  
という言い伝えがあるくらいなんですよ！

『カノープス』は、かつてアルゴ号という、ギリシャで一番早い船『アルゴ座』の星でした。

アルゴ座

しかし、あまりに大きな星座なので、

風をうける帆の部分を『ほ座』

船の後ろの部分を『とも座』

船の底の部分を『りゆうこつ座』。

そして、航海に必要な『らしんばん座』と、

今では四つに分けられています。

残念なことに、アルゴ号の姿は一部が南の地平線に隠れて、全体を見ることが出来ません。

全体を見るには、日本より、もっと南の方の国へ行かなくてはなりません。

※音楽終わる

M

冬は寒く、家の中にこもりがちですが、一年の中で最も空気が澄んでいて、星空が綺麗に見える季節です。

また、その星空には、たくさんの明るい星や星座が多く輝き、華やかさを誇っています。

『こいぬ座』の『プロキオン』・・・、

『おおいぬ座』の『シリウス』・・・、

『オリオン座』の『ベテルギウス』・・・、

冬の星座を見つけるキーポイントは、この三つの星で作った『冬の大三角』でしたネ。

今度は本当の星空で、今日紹介した星や星座を捜してみてください。

夜空に、星や星座を見つける喜びや楽しさ、きっと感じていただけたと思います！

プロキオン

シリウス

ベテルギウス

冬の  
大三角

END